

# 能登半島地震からの学校再開

令和7年2月18日

輪島市教育委員会教育総務課 平田 勝

発災日時：令和6年1月1日 16時10分  
マグニチュード7.6 最大震度7（輪島市、志賀町）

輪島市内には、公立学校として小学校9校、中学校3校、県立高校2校があり、すべての体育館が指定避難所となっている。市内小中学校は、1月8日から3学期が始まる予定であったが、すべての校舎で授業が再開できる状況ではなく、当面の間臨時休業とした。

# 学校関係の指定避難所

避難所名	収容人員	実際の使用事例
河井小学校（体育館）	589	体育館のみ避難所として使用、校舎は損傷が大きく使用不可
鳳至小学校（体育館）	540	体育館のみ避難所として使用、校舎は損傷が大きく使用不可
鵜巣小学校（体育館）	370	体育館は避難所の物資倉庫として使用、避難所は校舎を使用
大屋小学校（体育館）	364	校舎、体育館とも避難所として使用
河原田小学校（体育館）	365	体育館は緊急消防援助隊の活動拠点、校舎は避難所として使用
三井小学校（体育館）	305	体育館は崖崩れの危険性があるため、校舎は損傷が大きく使用不可
町野小学校（体育館）	461	体育館、校舎とも避難所として使用
門前東小学校（体育館）	444	体育館は自衛隊の活動拠点、校舎は避難所として使用
門前西小学校（体育館）	359	体育館、校舎とも避難所として使用
輪島中学校（体育館等）	2,094	体育館、校舎とも避難所として使用、市内で最大の避難者を受け入れる
東陽中学校（体育館）	512	体育館、校舎とも避難所として使用、消防、市役所支所、診療所も開設
門前中学校（体育館）	529	体育館、校舎とも避難所として使用
県立輪島高校（体育館）	1,587	体育館、校舎の一部を避難所として使用
県立門前高校（体育館）	888	体育館と校舎の一部を避難所として使用



鳳至小学校1階廊下

# 能登半島地震の状況

輪島市全域が壊滅的な状況で、避難所の解消がすぐには見込めない。学校はじめ、避難所となっている施設は避難者が多いことからひっ迫し、上下水道、道路事情もすぐに改善する見込みもないため、避難所運営も限界が来ている。全市民に対し市外へ2次避難するよう協力を呼び掛ける。

その際、事実上の就学や区域外就学について市のホームページで周知し、電話・来庁相談でもその内容を伝えた。

学校も校舎は避難所になっているか、危険なため使用できない状況だが、短時間でも子どもを預からないと大人は動けないので、2次避難の状況を見ながら、できるところから学校再開を探る。

## どのように学校再開するか

- ①すべての学校で再開することは不可能。市全域を3つのエリアに分け、使える校舎で学校再開を目指す
- ②中学生を対象に市外に避難させ、宿泊拠点に近い学校の空き教室を使い、学校活動を再開させる

令和6年5月1日現在



## 3地区で学校再開

【西部地区】 門前東小学校校舎に避難している方に移動いただき、校舎4階すべてと3階の一部を空けてもらって、1月24日に門前東小・門前西小・門前中学校の児童生徒を受け入れ学校活動再開

【東部地区】 町野小学校校舎に避難している方を体育館や東陽中学校に移動いただき、1月30日に町野小学校、東陽中学校の児童生徒を受け入れ学校活動再開

## 3地区で学校再開

【中央地区】児童生徒数が多い地区で、学校再開ができる輪島市の施設がない。地震前、市で高校魅力化プロジェクトを進めており、各高校の校長と意見交換していたため、輪島高校の校舎で輪島地区の児童生徒を受け入れてもらうことが可能か輪島高校校長に打診したところ快諾いただけただけ。しかし、校舎には多くの避難者がいて、教室を空けるのに時間がかかったが、中央部にある6小学校1中学校の児童生徒を受け入れていただき、2月6日に市内すべての小中学校が再開できた。

## 3地区で学校再開

すべての学校が再開できても、給食調理場が危険な状態、かつ断水が続いていたため、午前中しか学校活動ができず昼には下校させていた。

県内の支援団体から、弁当や炊き出しを昼食として提供することが可能という打診を受け、令和6年2月13日から昼食の提供を開始し、午後の授業も再開できるようになった。

この弁当の提供は、4月30日まで継続され、5月1日から市内の（共同）調理場が再開した。



6小学校合同授業  
(輪島高校)

# 中学生の集団避難

市内の道路、電気、水道の復旧に相当な時間がかかり、避難所もひっ迫していることから、一時的でも市外へ2次避難してもらえよう全市民にお願いしている状況であったこと、また、中学3年生は高校受験を控えていることから、安心安全な学習環境を提供すべく、市内全中学生（約400人）を対象に、輪島市から約130km離れた白山市にある県有施設への避難を呼びかけた。

短期間の希望調査であったが、約250人の生徒が集団避難に参加することとなり、1月17日から約2か月間親元を離れ、白山市立の中学校の空き教室を使って学校活動を再開した。

学校現場も拠点が白山市と輪島市に分かれたことにより、教員数が不足することとなった。白山市へは主に文部科学省からの派遣で全国の教職員が、輪島市へは石川県教委から県内の教職員が派遣されることとなった。

## 熊本県学校支援チーム・三重県災害時学校支援チーム訪問

熊本県・三重県の学校支援チーム先遣隊が輪島市を訪問し、現状把握いただき本隊の派遣を決定。

三重県の宿泊拠点西部地区に隣接する志賀町（旧富来町）なので、西部地区の学校再開に支援いただく。

熊本県は市役所内会議室に宿泊いただき、まず東部地区の学校再開に支援いただき、その後、中央部の学校再開準備の支援をいただいた。

教育総務課職員は、児童生徒の異動の把握、市長部局との調整（特に避難所の環境整備・営繕）、学校長への指示、報道対応等で学校現場に行くことができず、両県の学校支援チーム隊員には、校舎内の片づけや再開準備、安全対策、通学路の安全確認、登校指導、弁当の配膳などにご協力いただいた。

## 学校支援チームの活動で助かったこと

- ・ 児童生徒が命に関わる経験をして、心のケアが必要だが、教職員も同じ経験をしているので、教職員も心のケアが必要。児童生徒、教職員にも心のケアや声掛けをしていただくとともに、授業支援もしていただき、教職員の負担軽減につながった。
- ・ 中央部の6小学校や、西部の2小学校など学校を集約して授業再開したため、早急に児童間の融和が必要。ゲームやリラクゼーションなどして、学校間の壁を取り除いていただいた。

## 学校支援チームの活動で助かったこと

- 中学生の集団避難で、市内に勤務する養護教諭がローテーションを組み、白山市へ派遣されており、現地に残っている養護教諭が普段接しない児童生徒の様子を見なければならない状況。  
三重県の隊員が児童の不安定な様子に気づき、経験が浅く、心に余裕がない地元の養護教諭より先に、その子から輪島市の保健師と話したいということ聞き出し、市教委に連絡が入り、週1回保健師との面談につながることができた。担当保健師によると、週1回の面談が楽しみにしていると聞いた。
- 市外に避難していた児童生徒が、仮設住宅や仮設校舎の完成時期と重なる2学期に戻ってくることが想定されたことから、熊本県に依頼し、教員対象に心のケアに関する研修会を9月11日に開催していただいた。

# 学校支援チームの活動で助かったこと

- ・能登半島で起こった災害は、1月1日に発生した地震だけではなく、9月21日に発生した豪雨災害により、1年経過しないうちに学校が再度避難所として使われることとなった。
- ・短期間のうちに命に関わる経験を児童生徒が2回したことから、再度熊本県に児童生徒の心のケアに対応する支援チームの派遣を要請。10月中旬に4名の隊員を派遣いただいた。
- ・児童生徒以上に、教職員に対する心のケアの需要が多く、地元の教員の話（愚痴、悩み等）を聞き出していただいた。  
学校の管理職では聞き出せないことが聞き出せたと思っています。



輪島市役所上空 (R6.9.22)



町野小・東陽中付近 (R6.9.21)



塚田川下流付近 (R6.9.22)



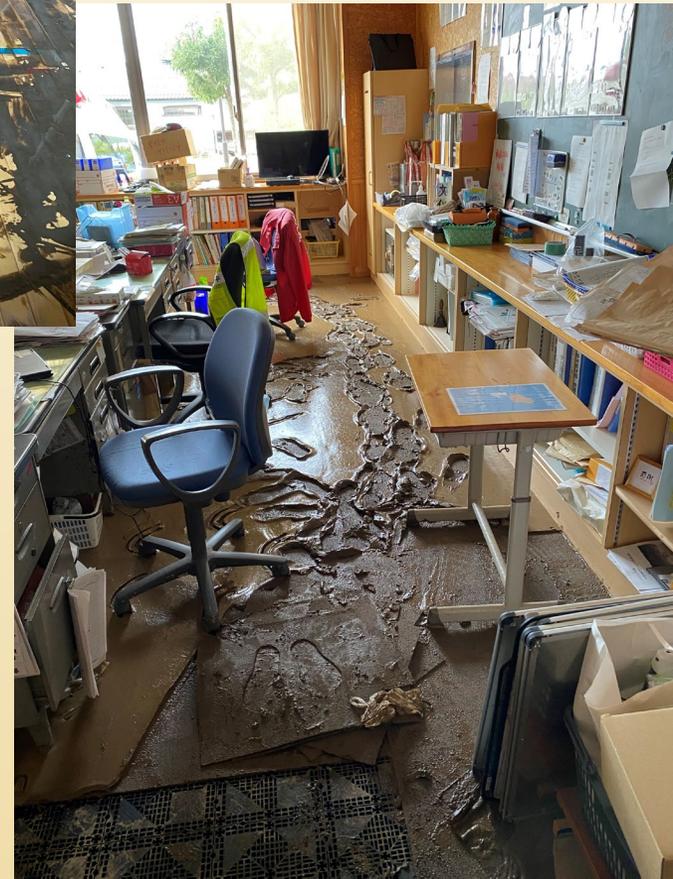
町野小学校教室



町野小学校昇降口付近



東陽中学校体育館



東陽中学校職員室